

▼シーエルセントリ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 マラビロク maraviroc (MVC) 【分類】 抗 HIV 薬 [CCR5 阻害剤]

【単位】 ▼125mg/錠

【常用量】 1回 300mg を 1日 2回

【用法】 1日 2回 [他の抗 HIV 薬を併用]

【透析患者への投与方法】 設定されていない (1)

【その他の報告】 減量の必要なし (17) ただし、CYP3A4 阻害剤や誘導剤併用時の投与量は設定されていない (FDA)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 Ccr<80mL/min では慎重投与 (1) 併用薬により Ccr 80mL/min 未満 : 1回 150mg を 12~24hr 毎 (1)

【その他の報告】 減量の必要なし、CYP3A4 阻害剤併用時は 150mg を 12hr 毎、CYP3A4 誘導剤併用時は 600mg を 1日 2回、ただし、Ccr 30mL/min 未満で CYP3A4 阻害剤や誘導剤併用時の投与量は設定されていない (FDA)

【特徴】 HIV が細胞に侵入する際に利用する補受容体である CC Chemokine Receptor 5 (CCR5) 阻害剤。CXCR4 指向性及び CCR5/CXCR4 二重指向性 HIV-1 の細胞内への侵入を阻害しない。

【主な副作用・毒性】 疲労、発疹、浮動性めまい、不眠、便秘、肝障害、血球減少、けいれんなど多数

【吸収】 P-gp の基質であり阻害剤である (1)

【F】 23~33% (1)

【tmax】 0.5~4hr (1)

【代謝】 CYP3A4 により代謝され不活性化される (1) 主代謝物 N-脱アルキル化体 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 8% [po,168hr まで] (1,17) 尿中回収率 20% (1)

【CL】 CYP3A4 阻害剤併用下では腎クリアランスの寄与率が大きくなる可能性がある (1) P-gp, OATP1B1 の基質 (1)

【t1/2】 14~18hr (1)

【蛋白結合率】 約 76% [Alb, AAG] (1)

【Vd】 約 194L/man (1)

【MW】 513.67

【透析性】 効率約 1/3 には除去できないと思われる (5)

【O/W 係数】 LogP=2.1 [1-オクタノール/水系, pH7.4] (1) 【TDM のポイント】 TDM の対象にならない (5) 高濃度で QT 延長 [animal model] (1)

【相互作用】 P-gp を阻害 (1)

【更新日】 20220326

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。